

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 蔡 知順

1. はじめに

2018年7月10日～11日の2日間、国際交流基金の助成を受け、韓国・ソウル Sookmyung Women's University において開催された、第2回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ(The 2nd Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics : KJYSP)へ参加し、自身の研究成果を発表したので、これを報告する。



写真1. Sookmyung Women's University

2. 学会について

KJYSP は製剤学・生物薬剤学分野(主に Formulation, DDS, PK/PD, Biotechnology)の若手研究者の交流及び研究活性化を目指した、日韓合同若手研究者ワークショップである。このワークショップは2つの講演、4つのセッション、そして、ポスター発表・口頭発表からなる。

3. 学会の様子

私は、口頭発表とポスター発表の場に参加した。英語での発表だったため、発表中に理解できないこともあったが、同世代の研究者や大学院生などの発表を拝聴する中で、自身の研究活動や英語学習に対するモチベーションが高まった。

私は大会初日に”Effect of glycosphingolipids addition on coenzyme Q10-loaded emulsion”という演題でポスター発表を行い、研究内容や実験方法について、多くの参加者から質問やコメントを頂いた。この学会発表を通して得た知識や、自分の発表に対して頂いたコメント、アドバイスを今後の研究活動に活かしていきたい。

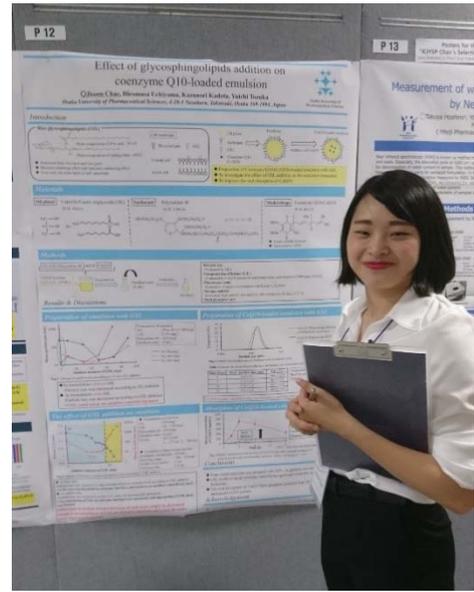


写真 2. ポスター発表風景

4. 韓国での生活

学会の空き時間を利用し、景福宮（キョンボックン）を訪れた。私はこれまで何度か韓国を訪問したことがあったが、景福宮を訪問するのは初めてであった。景福宮とは、1395年に創建された朝鮮王朝の正宮であり、王の政務の場、王の生活の場として知られる。景福宮の「景福」とは、王とその子孫、すべての人民（百姓）が太平の御代の大きな幸せを得ることを願う、という意味が込められている。



写真 3. 景福宮

5. 最後に

今回、国際交流基金の助成により、The 2nd Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics に参加させていただくことで、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験をすることができた。この経験を活かし、帰国後の語学学習に励みたいと思う。

最後に、このような機会を与えて下さった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。